

特集 小平市内の大学学生による「まちで楽しむ」プロモーション Second Stage

5月30日（金）、〈こだいらブルーベリーリーグ〉を構成する市内6大学（武蔵野美術大学、津田塾大学、白梅学園大学、文化学園大学、嘉悦大学、一橋大学）の学生達が地域の活性化を目指して行った活動を、学生自らが熱く語るプレゼン大会が行われました。エントリー活動は12、いずれ劣らず充実した活動内容が報告され、休憩を挟んで夜6時から9時までの3時間、会場は大いなる熱気に包まれました。それぞれの活動を簡単にご紹介します。



■嘉悦大学「小平産ブルーベリーのブランド化」

「小平産の、こだわりの」と「ブルーベリーがたくさん入った」という意味を掛け合わせて命名した「べりべりぶるべりこだプリン」をプロデュース。2ヶ月で1万個という販売目標を立てたものの、売れない現実に突き当たった彼ら。販路の問題とチーム力の低さが浮き彫りになり、一番足りなかつたのは“熱意”だったと気づき、その後奮起してみごと目標を達成しました。地域に応援してくれる人がいることに気づいた彼らは、常設店の拡大を目指して活動を展開中です。

■津田塾大学「まちチョコプロジェクト」

ペルーからフェアトレードで仕入れたチョコレートを市民から募集したデザインのパッケージで包んで販売、収益は現地の女性団体に送金しています。この3年間で2140個を売り上げ、今年も6月からデザインを公募し11月に販売開始を予定しています。

■嘉悦大学・文化学園大学

「ぼくらの出会ったコダイライフ」

小平の住みやすさに着目し、人をモチーフに小平の魅力をポスターにしました。人にフォーカスをあてることでコミュニケーションの機会を提供できると考えたからです。この活動を通して、地域の人の思いを聴けたことが何よりの収穫だったそうです。

■白梅学園大学「世代間交流による居場所づくり支援」

白梅の子育て広場は全部で7つ、その内の世代間交流広場は学生がコーディネーター役となり継続的な交流の場が開かれています。最近ではコミュニティ・カフェを開いたり、“コミュニティサロンさつき”との連携も行われています。

■武蔵野美術大学「十二小へのプレゼント」

学校横の道路開発のために大ケヤキと築山がなくなる12小、「その過去・現在・未来にプレゼントをしよう」と、4週間にわたって様々な取り組みをしました。そこには美術の力で未来を創った子どもたちの姿がありました。

■武蔵野美術大学「まい☆きやらプロジェクト」

国立精神神経医療センター養育指導室スタッフと共に、筋ジストロフィー患者に対して日頃の生活にない刺激を与えようと始まったプロジェクト。患者たちが発する言葉やプロフィールを元に学生がパソコンを使ってキャラクターを作り、名刺やステッカーに仕上げました。学生たちは、「一人の人間として関われたことが他

これを主催したのは「東京小平ロータリークラブ」、企業人が職業を通じて社会貢献を行う団体です。その事業の一環である次世代育成プログラム“ローターアクトクラブ”が2年前に嘉悦大学にでき、昨年に続き今年も本イベントの企画・運営を担いました。「まちを変えるのはヨソモノ、若者、バカもの」とよく言われますが、地域のために何かしたい若者がたくさんいることがわかり、地域の活力になることを実感しました。（取材・文責 田原）

では得難い体験だった」と話していました。

■武蔵野美術大学「知的障がい者とのアート活動

～障がい者週間に向けて～

12/3~9の障害者週間に行われる「異才たちのアート展」に向けて、障がい者と市民の交流を図る活動をしました。これまでバラバラにおこなってきた人たちがひとつになってやったことで「大きなつながり」ができました。また市民には、同じ地域に生きていると実感してほしいとのことでした。

■武蔵野美術大学

「学園坂ペインティング～昔話への旅～」

衰退していく商店街をアートで盛り上げようと、シャッターに絵を描く「昔話への旅プロジェクト」。「小平民話の会」から昔話を聞き取り、四季をテーマにした絵を日曜日ごとにコツコツと描き上げて春編は完成、7月には“でいだらぼっち”が完成する予定です。

■武蔵野美術大学「発見！発掘！コダイラモジ！！」

2013ルネこだいら夏休みフェスタの「子どもの広場」で行われた“文字”をテーマにしたワークショップ。いつもはガランドウの展示室に、この日はルネこだいらに遺跡が現れたという設定で幾つもの楽しいコーナーが出現しました。

■武蔵野美術大学「国際交流プロジェクト～思い出を交換しよう Exchange Our Memories～」

「造形を通してボーダー（国、世代）を超えたコミュニティ体験」をテーマにワークショップを開きました。グローバル人材育成に力を入れる大学に対しても、また地域にも貢献できたそうです。

■嘉悦大学「地域実学推進センターの仕組み」

昨年発刊の「たまらび」リニューアル号の編集に関わったことがきっかけで、地域と学生のパイプ役になりたいと2014年4月に結成したばかり。学生の登録者数100名を目指しているそうです。

■一橋大学・津田塾大学「KF活動紹介」

築50年の国立市富士見台団地を舞台に11年前にスタートした産官学民のプロジェクトで、学生が地域に関わるハシリのような存在。今ではいくつもの事業を開催していますが、学生たちが関わったきっかけは大仰なものではなく、やっている中で人との出会いがあつて続けてきたことがわかりました。

(*KF:NPO法人くにたち富士見台人間環境キーステーション)